

思考力育む学校図書館

知事と片山教授が対談

研究会開幕
松江大会
全国大会

学校図書館問題研究会（飯田寿美代表）の全国大会が4日、松江市玉湯町内で3日間の日程で始まった。初日は、島根県の溝口善兵衛知事と片山善博慶応大教授の対談があり、参加者は子どもたちの

豊かな感性や思考力を育む学校図書館の重要性を再確認した。

研究会は、教職員や

小中高校の学校図書館

司書らが個人加盟する

全国組織。島根県内で

の全国大会開催は5年

ぶり、約400人が

参加した。

対談は「学校図書館

と子どもたちの未来」

がテーマで、溝口知事

は2009年度に始め

た司書を配置する市町村への財政的支援などの図書館に週1回以上行く児童生徒の割合が小学校30・3%、中学校14・8%と全国平均を上回り、「授業でも図書館の本が活用されるようになった」と成果を報告した。

学校図書館の重要性について意見を交わす溝口善兵衛知事（右）と片山善博慶応大教授—松江市玉湯町玉造、長生閣



時代に図書館の充実に力を入れた片山教授は、学校教育が受験勉強に偏り、いかに早く正解を導き出すかの訓練になっていると指摘。「受験勉強のように人生には必ず正解があるわけではない」とし、自分で考える力を養うためには「本を読むことが大事」と述べ、図書館が果たす役割の重要性と充実を訴えた。

5、6日には図書館活用の事例報告や分科会などがある。

鳥取県知事や総務相